

**地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	10
代表校名 (連携校名)	山陽小野田市立山口東京理科大学		
事業名	山口県が抱える薬剤師の地域偏在と在宅医療の問題を解決する 先進的な薬剤師養成プログラム		
事業責任者	薬学部長 武田 健		
事業の概要			
<p>山口県は、①高齢化・過疎化が著しく、②医療従事者の高齢化と地域偏在といった医療問題を抱えており、地域医療の確保と今後ニーズが高まる在宅医療への対応が急務となっている。本学には公立大学として地域において活躍できる薬剤師の養成を一つの命題として与えられている。そのため学部開設当初から、県薬務課、県薬剤師会、県病院薬剤師会、地域医療機関等と密接に連携を取りながら薬学生教育に取り組んできた。本事業では、これまでに培ってきた多くの組織との関係性を最大限に活かし、病院薬局実務実習を終えた薬学生を対象としたアドバンストコースとして「へき地の在宅医療実務実習」を導入する。それと並行し5GとXR（クロスリアリティ）のVR（仮想現実）やAR（拡張現実）を活用したへき地医療疑似体験教材を作成する。本事業を通じへき地医療の問題点を理解し、それらの解決にむけたマインドと実践力を有する薬剤師を育成し地域に輩出する。</p>			
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○当大学は、開設当初から地域での薬剤師不足、偏在の問題に取り組んでおり、細部にわたって計画された意欲的な構想と思われる。</p> <p>○僻地の在宅医療実務実習やXR技術を活用した遠隔地服薬指導・調剤シミュレーションは新規性・先進性の高い取り組みである。</p> <p>○薬学部のない山陰地域（島根県・鳥取県）出身の在籍学生をも想定しており、両県とも薬剤師の地域偏在が大きな問題となっている地域であることから、連携は容易であると想像でき、実現性の高い連携であると思われる。</p> <p>○母体が山口県であることから、すでに山口県薬務課や薬剤師会とも連携が形成されており、また具体的な個人名まで示されていることから、実現性が極めて高い運営体制である。</p> <p>○具体的かつ詳細に示されている。教職員の能力向上のためにFD・SDが実施されている点は評価できる。</p> <p>○年次進行に応じて、具体的に計画されており、初年度からへき地の実務実習が盛り込まれている点は評価できる。</p> <p>●医療へき地では、人的・物的サポートを得た実習が可能なのか疑問であり、医療へき地の問題は、そもそもDXの導入だけで解決できるのか疑問である。</p> <p>●「薬局病院特別実務実習」は選択コースという設定なので、それを選択して地域医療に貢献したいという意欲を醸成するための講義科目では、DXの内容が強調されすぎてはいないか。</p> <p>●山陰地域のみならず、他の地域（高知や福井など）へのプログラムの拡大もぜひ検討いただきたい。</p> <p>●教育の内部質保証のための具体的な体制についても明示していただきたいかった。</p>			